

総合診療科発展に伴い 地域医療は活性化

医学部附属病院 総合診療科 専攻医

堀田 弥希 [ほりた みき]



—— 大学卒業後の経緯は？

自治医科大学を卒業後、高崎総合医療センターでの2年間の初期研修を経て、群馬大学医学部附属病院総合診療科に入局しました。現在は総合診療専攻医1年目として研修をさせていただいております。

—— 本学が「ぐんま総合診療医センター」を設置し、総合診療医育成を強化します。県や他の医療機関と連携して推進し、入学前から卒業後まで一貫した支援体制を築くとしています。

私が学んだ自治医科大学では、研修の過程で診療所などの僻地勤務が義務付けられていました。総合診療科の研修でも僻地医療を意識した研修を行っております。本学が県、他の医療機関と連携する「ぐんま総合診療医センター」ができたことで、僻地など医療の届きにくい場所にも総合診療を提供することができるのではないかと期待しております。また、群馬大学などの地域枠の学生や自治医科大学の学生にとっても大変心強い制度だと感じています。

私個人としては、専攻医1年目の段階で総合診療医センターが開設されたことで、総合診療専門研修と僻地勤務を両立する新たなロールモデルを提供できると考えます。

—— 地域医療は多くの課題に直面しています。

群馬県における総合診療科は黎明期であり、総合診

療科の発展に伴って地域医療もさらに色々な形で活性化していくと思います。もし、これから盛んになる診療科に興味がある方、地域医療に携わりたい方がいましたら、ぜひ総合診療科を検討してみてください。

—— 先生の強みは何ですか。

総合診療科を専門とする医師は群馬県全域で必要とされていますが、実情としては他科の先生が需要に合わせて総合診療を行っているケースも多くあります。そのような中で、私は総合診療を専門とする医師として、三次救急の大病院から地域の総合病院、さらに僻地診療所という多様な医療の場を経験していることを地域に還元できると考えます。

—— どんな分野に興味がありますか。

一般の方を対象にした、医療への関心を高める活動に興味があります。

医学生の頃、模擬患者の診断や魚の解剖など、中高生向けの医学体験企画を開催しました。医師になってからは舞台表現活動で医療を扱うことを模索しています。

本センター設立に伴い、中高生や医学生を含めた世間一般の総合診療科の認知度が高まると嬉しいです。